

アジア太平洋地域との繋がりを深めるハバロフスク

ERINA調査研究部主任研究員 辻久子

第5回国際投資フォーラム

ハバロフスク地方が中心となって進める第5回国際投資フォーラムが、2003年9月16 - 17日、ハバロフスク市において開催された。フォーラムの主な目的は、ロシア極東と北東アジア諸国との経済関係発展の条件を探り展望すること、及びロシアの国際関係を拡大・強化するための政策形成に資することであった。今回の2つの副題「ロシア極東エネルギープロジェクト：地域間・国家間協力」、及び「ロシア極東の北東アジアへの統合の形態としての越境協力」に示されるように、エネルギー問題が主題であったが、中国黒龍江省からの大代表団を迎えて越境協力が新しいテーマとして登場した。

フォーラムは2つの全体会議と4つの分科会：「エネルギー」、「木材加工」、「越境協力と貿易区」、「観光」により構成され、中国、米国、日本など9カ国の政府、企業、研究者、国際機関代表、ロシア各地域の代表など200人以上の参加があった。外国人の中では大挙して参加した中国人、エネルギーや木材分野で積極的な米国人が存在感を示した。これに対し、日本人の参加は現地駐在者が中心で数も少なく、報告を行ったのは木材加工分野の前田奉司・ハバロフスク日本センター所長、及び観光分野の私の2人だけであった。

計60以上の報告がなされ、全体会議は口・英・中・日4ヶ国語の同時通訳で行われた。分科会は口・英、ないしは口・中の逐次通訳で行われた。

エネルギー関連の報告としては、全体会議でIshaev知事の「ロシア極東エネルギープロジェクト」と題された報告に続き、サハリン 1、サハリン 2の代表（米国人）がプロジェクトの進捗状況を説明した。いずれも、プロジェクトが順調に進んでいること、ロシアのためになっていること、ターゲットとなる市場などについて述べた。エネルギー分科会においては主にロシア人による報告が行われ、北東アジアとロシアのエネルギー協力やロシア国内・各州のエネルギー問題が論じられた。総括全体会議で、イルクーツク・エネルギーシステム研究所のSaneev氏がロシ

アの2020年までのエネルギー政策を概観した上で、北東アジア諸国との協力が重要になってくるとの方向性を示した。最後に北東アジア全体をカバーする壮大なエネルギービジョンを提示して締めくくった。しかし、発表者はエネルギーを売りたい人ばかりで、北東アジアにおけるエネルギーの買い手である日本、韓国、中国の関係者が不在なため、議論が一方通行になってしまった。

国内エネルギー分野で強調されたのは極東のガス化で、現在、サハリン～コムソモルスク・ナ・アムレー～ハバロフスクを結ぶガスパイプラインが建設中である。これを利用してサハリンの天然ガスを中国へ輸出することも考えられる。国内的には生産・加工分野における効率化、国際的には有望なプロジェクトの推進、長期的視点に立った資源探査が目標に加えられた。

国境を接する中国とハバロフスク地方は経済的交流が身近に行われている。市内の市場に並んでいる商品の大部分が中国産であると言っても過言ではない。今回、黒龍江省副省長を代表とする代表団が参加し、中口間国境経済交流面での協力へ向けて意見交換が行われた。具体的問題としては、中口国境を流れるアムール河やウスリー河における密漁の取り締まり、両国で漁獲量のクォータを設定すること、日本も含めて密輸品運搬を摘発するための国際協力を行うことなどが議論された。越境協力について話し合う枠組みとして、北東アジア自治体連合を利用することも提起された。さらに、ロシア国内に越境協力問題に関する法整備が完備していないことが指摘された。中国で制度化されている「国境貿易」や「互市貿易区」のような制度の導入をロシア側が目指しているのではないかと。

ついでながら、黒龍江省関係者はフォーラムの翌日、ロシア側企業と商談会を行っていた。会議と商売をセットにするやり方は北東アジアで普遍的になりつつある。

観光分科会では、日本人観光客がロシア極東を訪問する場合にロシア極東に何が不足しているのかについて私が発表した。別掲原稿を参考にさせていただきたい。私の厳しい指摘に、ロシア人関係者は、外部からの貴重な意見は参考になると耳を傾けてくれた。関係者の話によると、ハバロフスクにあるホテルのベッド数は400床に過ぎず、これ以上日本人観光客を誘致するのは難しいとのことであった。また、ビザの問題など、地方ではどうしようもないことが多すぎるという声も聞かれた。韓国、中国が日本人観光客に対してビザ免除した今、ロシアの相対的不利は否めない。総括全体会議では、観光分科会を代表して再度報告を行った。会議終了後、私の報告に対して、米国や中国の代表が賛辞を寄せてくれたのに驚いた。多くの外国人がハバロフ

スクにおいてホテルの質、航空料金や空港使用料に大いなる不満を抱いていることが察せられた。

全体会議では他にも興味深い報告があった。EBRDウラジオストク事務所のDanysh氏はEBRDのロシアにおける活動について述べた。EBRDの融資プロジェクトは極東には少ないが、ハバロフスク地方のハイウェイ建設やエネルギー関係のプロジェクトに融資している。EBRDの基本方針である65%を協調融資で集めるという条件が制約になっている。

米口間経済協力組織として活動している、ロシア・アメリカ太平洋パートナーシップ代表のNoberg氏は米口間貿易・投資の成果と問題について述べた。Noberg氏によると米国と極東との貿易は現在も少なく、極東の経済的潜在性は生かしていない。その理由として投資環境がまだ不十分であることを挙げた。課題として、90年代に米国企業が失敗した例が多くイメージが悪いままである；ロシアでは法律解釈が一定せず、国際基準によるものと異なる場合が多い；税金問題などで外国企業に不利になるような内外差別が当局によって作られている；非合法ビジネスの存在；関税などの情報が不足していることなどを指摘した。この話を聞いて、日本企業と米国企業は同じような問題に悩んできたことが察せられた。対口ビジネスに関して日本と米国が協力できる余地があるのではないかと。

今回のフォーラムを通じて感じたのはハバロフスク地方から北東アジア諸国への強いラブコールである。Ishaev知事らは連邦政府が欧州との連携を強めようとしているとの危機感を募らせている。ロシア極東はアジア太平洋諸国との経済交流こそが発展への道であると主張するIshaev知事は、様々な政策的問題について連邦政府への不満を示す。その意味で、今フォーラムはロシア極東から北東アジア近隣諸国への呼びかけをするよりも、連邦政府に対する政策変更への要求のための行動であるという印象が残った。

ハバロフスク散策

会議の翌日、澄みきった秋空の下、ハバロフスクの町を歩いた。私にとってちょうど2年ぶりで随所に変化を感じ



ムラビヨフ・アムールスキー通り

取ることができた。街の中心部を南北に走るメインストリート（ムラビヨフ・アムールスキー通り）には歴史的建物が並んでいるが、順次改装が施され、美しい欧風通りになりつつある。



ムラビヨフ・アムールスキー通り

街角のキオスクも改装されてきれいになった。メインストリートがアムール河に突き当たる手前の広場に絢爛豪華な現代風ロシア寺院（聖マリア教会）が完成した。

これは2年前に訪れたときには藁に覆われ建築中であった。教会の新築はブームと見えて、他にもアムール河近くに幾つか建築中の教会があった。アムール河沿いの公園も改装工事が行われている。街の中心近くにある広大なディナモ公園も池の周りがきれいに整備され美しかった

始まったばかりの黄葉が池に映り叙情的秋景色を作り出している。緑地帯にはカラフルな花も多く植えられている。街が美しくなることは観光という視点からも歓迎すべきで、現に、ホテルで会った日本人観光客は「きれいな町で



聖マリア教会



ディナモ公園

すね」と喜んでた。しかしロシア人の友人に言わせると、「メインストリートはきれいになったかもしれないが、一步入るとね」というものだった。

建物がきれいになったのとは対照的に、通りを走るバスやトロリーバスは老朽化したものが多い。



老朽化したバス

その多くはソ連時代に東欧諸国などで製造された骨董品で、ベンキは禿げ、壊れたのかボンネットを外して走っているものもある。ハバロフスクの街は坂道が多く、これらの老朽バスはいかにも喘ぎながら坂を登っていく。多くの乗用車が日本製の立派なものなのに、バスやトロリーバスだけがなぜ老朽化したものを使用しているのか。燃料効率だって悪いだろうし、環境面でも問題だ。ロシア人に聞くと、日本のバスは右ハンドルで乗車口が左側に付いているのでまずいと言う。しかし、日本の中古バスが右ドアに改造されてフィリピンなどで走っている例が多数ある。ロシアの利用者のためにも、日本のバスの更新を早めるためにも、何とかできないかと考えてしまった。

街で一番にぎわっているのは中央市場であろう。街の中心部にあり、生鮮食品、衣類、日用雑貨など、日常生活に必要なものが並んでいる。



中央市場

東京のアメ横やソウルの南大門市場のミニチュア版か。衣類はほとんどが中国製、日用雑貨は中国、韓国、欧州から、野菜・果物も中国産がかなりあるようだ。日本のモノはまず見当たらない。中国から輸入される物資の多くはアムール河を船で輸送されるという。船や筏で河を渡るというのは私達が見落としてきた輸送回廊かもしれない。

街を歩いてみて気になったのは物価だ。9月時点で1

ルーブルは約4円だったのでそれで換算してみると、私が見た値段は次のように高いものや安いものがあった。

まず一番高かったのはハバロフスク空港使用料で3,200円。高いと悪評の関西空港が2,650円である。外国へ行くロシア人はお金持ちばかりだから高くても問題ないとのこと。

ホテルでコーヒーを飲むと、インスタントコーヒーが240円。砂糖は置いてあるがクリームは無い。どこへ行ってもインスタントコーヒーしかなく、レギュラーコーヒーを入れたときのあの香りが懐かしくなった。ロシア人の友人の話では、市内に数軒だけレギュラーコーヒーを入れる通向けの店があるとのこと。先日ソウルの喫茶店でインスタントコーヒーを出されて驚いたが、北東アジアはコーヒー文化が未成熟地域であると言えるだろう。ホテルの食事は日本とおなじ程度に感じられた。

安かったのは、街角のキオスクで買ったパンだ。ズシリと重いロシア風黒パンの塊（635gあった）が26円（6.5ルーブル）。日本ならこの数十倍はするだろう。パンとダーチャで作った野菜のスープを食べていれば安く生活できると思った。しかしパンでも菓子パン類は高い。名物のソーセージ類も日本に比べるとかなり安い。

市民の足となっているバスは20円（5ルーブル）。屋台のアイスクリームはコーンにたっぷり入って70円ほど。

商品価格に占める税構造がどうなっているのか不明であるが、ロシアの物価体系は、必需品は極端に安く、贅沢品は極端に高いと言えそうだ。



中国製衣類（中央市場）



野生の茸（中央市場）